

株主の皆様へ

第156期 中間報告書

2019年4月1日～2019年9月30日

株式会社トクヤマ



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当上半期の業績は、米中貿易摩擦や半導体業界の調整局面による影響のため主力製品を中心に販売が軟調に推移し、営業利益は前年同期比14%減の146億円となりました。

一方、財務面では7月に格付けがA格に復帰となり、中期経営計画の4つの重点課題の一つである「財務体質改善」につきまして目途がついたと考えています。

5年間の中期経営計画も残り1年半となりました。2021年度から始まる次期中期経営計画で大きく飛躍するために、重点課題である「組織風土の変革」「事業戦略の再構築」「グループ経営の強化」を実行し、成長軌道への道筋をつけていきます。

また、地球環境問題についても、事業継続の観点から全社の課題として重点的に取り組みます。当社は自社で石炭火力発電を所有しており、そこから排出される炭酸ガス(CO2)は、地球温暖化の原因となり対策が急務です。以前から社内でも部署連携のプロジェクトとして取り組んでおりましたが、責任と権限を明確にして、諸施策の実施を促進するために、CO2対策に特化した専門部署を立ち上げ課題解決を加速します。

今期は、上半期が減益となったものの、通期では前年度並みの営業利益350億円を予定します。配当につきましては、中間配当を予定どおり1株当たり前年同期比10円増配の35円として実施いたします。

今後も中期経営計画を着実に実行し、株主の皆様のご期待にお応えするよう全力で取り組んでまいりますので、一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年11月

株式会社トクヤマ

代表取締役 社長執行役員

横田 浩

会社概要 [2019年9月30日現在]

商号	株式会社トクヤマ (英文表記: Tokuyama Corporation)
創立	1918年2月16日
本社	〒745-8648 山口県周南市御影町1-1 TEL.0834-34-2000
資本金	100億円
ホームページ	https://www.tokuyama.co.jp/

役員体制 [2019年9月30日現在]

取締役

代表取締役	横田 浩	化成品、セメント、ライフアメニティー、研究開発、監査室 担当
	安達 秀樹	徳山製造所、鹿島工場環境安全・生産技術 担当
取締役	杉村 英男	経営企画、CSR、総務人事、購買・物流、秘書室 担当
	野村 博	特殊品 担当
取締役 (監査等委員)	宮本 陽司	(監査等委員長)
	加藤 慎	(社外取締役)
	河盛 裕三	(社外取締役)
	松本 直樹	(社外取締役)

執行役員

社長執行役員	横田 浩	
専務執行役員	安達 秀樹	徳山製造所長
常務執行役員	安中 利彦	購買・物流部門長
	杉山 良	ライフアメニティー部門長
	杉村 英男	経営企画本部長
	野村 博	特殊品部門長
執行役員	松屋 和夫	CSR推進室長
	岩崎 史哲	研究開発部門長 兼 つくば研究所長
	谷口 隆英	セメント部門長
	樽谷 豊	化成品部門長
	藤本 浩	総務人事部門長 兼 人事グループリーダー

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 [郵便物送付先] 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 [電話照会先]0120-232-711 (通話料無料)
公告の方法	電子公告の方法により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL (https://www.tokuyama.co.jp/)
上場取引所	東京証券取引所
証券コード	4043

株式に関する手続きについて

特別口座に記録された株式

特別口座から一般口座への振替請求
単元未満株式の買取(買増)請求
住所・氏名等のご変更
特別口座の残高照会
配当金の受領方法の指定*
郵送物等の発送と返戻に関するご照会
支払期間経過後の配当金に関するご照会
株式事務に関する一般的なお問い合わせ

お問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
0120-232-711 (通話料無料)

[手続き書類のご請求方法]
インターネットによるダウンロード
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

*特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はご選択いただけません。

証券会社等の口座に記録された株式

郵送物等の発送と返戻に関するご照会
支払期間経過後の配当金に関するご照会
株式事務に関する一般的なお問い合わせ

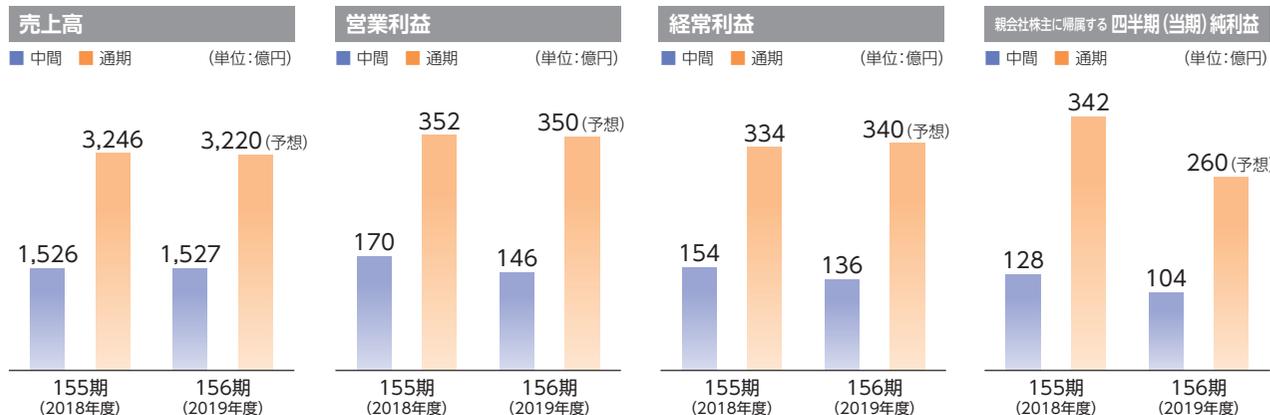
お問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
0120-232-711 (通話料無料)

上記以外のお手続き、ご照会等は、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

業績の概況 [2019年4月1日から2019年9月30日まで]

連結



売上高

主力製品を中心に販売は軟調に推移しましたが、前年7月の新規連結子会社の発生により、前年同期より50百万円増加し、1,527億49百万円（前年同期比0.0%増）となりました。

営業利益

主力製品を中心に販売が軟調に推移したことにより、前年同期より24億7百万円減少し、146億12百万円（前年同期比14.1%減）となりました。

経常利益

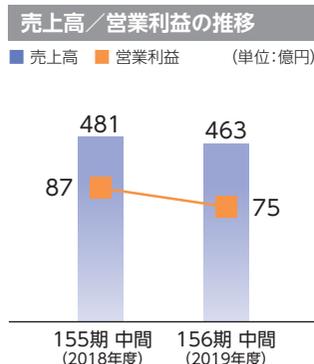
営業外損益は、前年同期より5億80百万円改善しました。以上の結果、経常利益は、前年同期より18億26百万円減少し、136億43百万円（前年同期比11.8%減）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

特別損益は、前年同期より6億68百万円悪化しました。以上の結果、税金等調整前四半期純利益は、前年同期より24億94百万円減少し、134億10百万円（前年同期比15.7%減）となりました。応分の税金費用を加味した四半期純利益は、前年同期より24億38百万円減少し、107億17百万円（前年同期比18.5%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期より24億32百万円減少し、104億円（前年同期比19.0%減）となりました。

セグメント別の概況 [2019年4月1日から2019年9月30日まで]

化成品



苛性ソーダは、販売数量は堅調に推移したものの、原料価格の上昇及び海外市況の下落により、減益となりました。

塩化ビニル樹脂は、原料価格と販売価格のブレッドを維持で

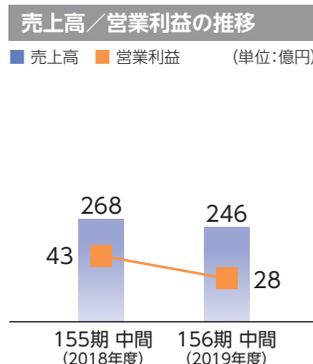
きたことにより、増益となりました。

酸化プロピレンは、主要用途であるウレタン向けの販売数量が減少したことにより、減益となりました。

塩化カルシウムは、販売数量が軟調に推移したこと、及び物流費の増加等により、減益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は463億48百万円（前年同期比3.8%減）、営業利益は75億11百万円（前年同期比14.6%減）で減収減益となりました。

特殊品



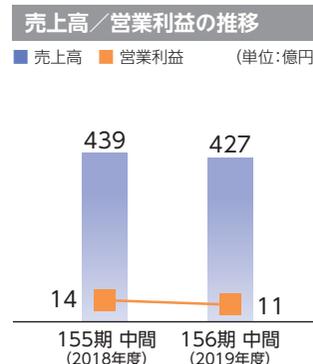
半導体向けの多結晶シリコンと放熱材は、半導体市場の回復の遅れにより販売数量が減少し、減益となりました。

電子工業用高純度薬品は、海外向けを中心として販売数量が回復し、前年同期並

みの業績となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は246億3百万円（前年同期比8.3%減）、営業利益は28億13百万円（前年同期比34.6%減）で減収減益となりました。

セメント



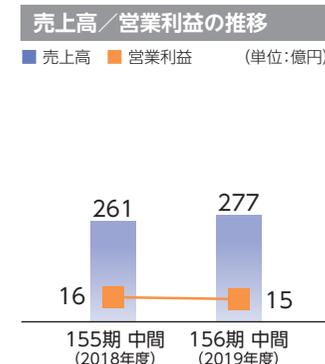
セメントは、一部価格は正の効果があったものの、販売数量が減少したことや、修繕費等の固定費の増加により、減益となりました。

資源リサイクルは、前年同期並みの業績となりました。

連結子会社は、生コンクリートの販売が堅調に推移し、前年同期並みの業績となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は427億19百万円（前年同期比2.7%減）、営業利益は11億85百万円（前年同期比15.7%減）で減収減益となりました。

ライフアメニティー



プラスチックレジン関連材料は、メガネレンズ用フォトクロミック材料の販売数量が増加し、増益となりました。

歯科器材は、海外を中心に販売数量は増加しましたが、新製品の上市に伴う広告宣伝費

等の増加により、減益となりました。

医療診断システムは、検体検査自動化システムで国内の大型案件を獲得し、増益となりました。

イオン交換膜は、大型案件の減少により、減益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は277億22百万円（前年同期比6.2%増）、営業利益は15億62百万円（前年同期比7.8%減）で増収減益となりました。